第１回　庄原市地域水道ビジョン策定委員会議事録

日時　　：平成 24 年 10 月 11 日（木）　13:25～15:00
場所　　：庄原市役所本庁舎５階　第１委員会室
配付資料：議事次第、委員会資料
出席者：委　員　近藤久子委員、藤原謙治委員、道下伸雄委員、落合祐一委員、
津秋なおみ委員、春田正治委員、神田茂生委員、原田浩幸委員、橋本 温委員、
川西秀則委員、西尾宣孝委員、高橋弘文委員
事務局　水道課　滝口博章課長、柿本英生庶務係長、樽 克文工務係長、
森永智徳主任主事、迫 慎一主任主事
東城水道室　塚原春雄室長、藤岡由夫東城水道係長
西城支所　片倉孝則環境建設室長、山本浩樹主任技師
口和支所　繁田浩二産業建設室長、石田泰清環境建設係長
高野支所　森岡 浩産業建設室長、山下幹生主任
比和支所　井西一行産業建設室長、加川元暁主任主事
総領支所　矢上勝由産業建設室長、石原博行環境建設係長
事務局補佐
日水コン(株)　３名

１．開会挨拶

市長より挨拶。

２．委員の紹介

委員の紹介に続き、事務局、受託者自己紹介。

３．委員長及び副委員長の互選

委員より原田委員を委員長に推薦。→異議なし。
委員より神田委員を副委員長に推薦。→異議なし。

４．会議の公開について

事務局より会議の公開について説明。→異議なし。

５．議事

①委員会の趣旨と検討事項について

事務局より説明。(質疑なし)

②庄原市地域水道ビジョン策定事業の概要について

事務局より説明。(質疑なし)

③庄原市の水道事業の概要について

事務局より説明。

委　員　）説明資料には課題が挙げられているが、これらの課題に対する、水道課で話し合った対応案の提示があっていいのではないか。この案に対して、策定委員会で議論を行えば、議論も広がるのではないか。

委員長　）水道課の方で回答があれば。

事務局　）案はありますが、基礎調査を行って、より具体的な案としたい。これに対する、具体的な意見を頂きたい。今年度は現場調査等、基礎調査を徹底的に行い、来年度、具体的な議論をお願いしたい。

委　員　）もっと課題を絞り込んだらどうか。課題ごとに資料を用意する必要がある。課題が多すぎて議論が難しい。

委員長　）水道ビジョンを総合的に考えていく中で、いろいろな問題の解決策の提示が、今後出てくるだろう。

委　員　）今後、具体的な資料が必要だ。

委員長　）資料は今後出てくるもので、本日の資料に出ている課題は、今後の予告ということで理解いただきたい。

委　員　）了解。

委　員　）耐震化や災害対策は近々の課題であるが、これに伴う危機管理体制は水道事業では考えないのか。

事務局　）県の指導もあり、危機管理マニュアルは策定している。地震や水害があり、これらが起こった場合の運転マニュアルも各自治体作っている。県からももっと改善するようにとの指示も出ている。

委　員　）県と水道課の関係はどのようになっているのか。

委　員　）保健所は指導する立場にある。危機管理、水道管理ができているかを監視指導する立場で、連携を図っている。また、施設整備にかかる国庫補助の関係や水道事業の認可などを広島県庁の食品生活衛生課が行っている。

委　員　）水質についてはどうか。

委　員　）事業者が水質検査を行い、きちんと行われているかの検証的な立場である。

委　員　）水道課で水が濁った等の事態が起きたとき、保健所に連絡が行ったとき、すぐに原因を調査してくれるのか。検査施設を持っているのか。

委　員　）検査施設は持っている。基本的には現場に赴きなどし、原因が分かるまでは水を止めてもらう。原因については、事業者で原因追求を行ってもらう。問題ないという結果について、間違いないかどうかの確認を行っている。

委　員　）危機管理になっていない。対応が後手に回っているのではないか。もっと管理すべきではないのか。

事務局　）県は指導する立場ではあるが、水質管理は水道事業者の義務であり、日常業務はしっかりと行っている。異常が出たら対応するのは大原則である。問題が大きい場合は県と連携する。結果等は県、場合によっては報道機関へも公表している。水質検査結果はホームページでも公表している。

委　員　）簡易水道も含めて最終的に一本の会計になるとあるが、できるのか。支所の皆さんが企業会計をマスターするというのは大変なことなのではないか。地方公営企業法が制定、改定された際も、このようなことは想定していないのでは。この策定委員会を招集するということは、市民、水道利用者の意見を吸収するということで、大変いいことだと思うが、今後どの段階でどういう意見を述べるかは、全体計画の中で判断したい。任期が２年あり、１年目は話を聞くだけという気がするが、２回目以降の会議に向けて、今後どのように会議を進めていこうと考えているのか。いつの段階でどのような議論をするのかを聞いておくと判断がしやすいと思う。

事務局　）今年度は課題の報告を行う。現状を把握するのが今年度の目的である。これを基に、市の方でいろいろな計画案を提示する。これを踏まえて、来年度より具体的な議論をお願いしたい。

委　員　）基礎調査の中で有収率の問題が出てくると思う。西城地域は有収率が低いことが問題となるのではないか。

事務局　）西城地域の簡易水道は有収率 80％程度であるが、他地域と比較すると確かに低い。老朽化等によるものと考えられ、漏水があるだろうということで、早急に直していかなければならないという大きな課題となっている。議会でも漏水が多いことが去年からも指摘されおり、計画的に配水管の布設替えを進めるという回答をしている。基礎調査の中でも各施設の老朽度等の調査は行うので、数値がでてくる。

委　員　）工事が多いときに漏水が多くなることもある。

委　員　）大きい損失水の中には、盗水はないか。

事務局　）ないものと認識している。

委　員　）いろいろ説明されたが、よく分からない話なので問題を明確にしてほしい。何が課題で、このための施策は何か。どのような費用がかかって、どこから捻出するのか。一方で、市民にどれだけの負担がかかるのか。施設整備の必要性はどうなのか。これをどう判断するのか、こういったことを議論していくのだと思うが、個々の問題について施策や現状を出してもらい、議論ができるように、より詳しく教えてほしい。

事務局　）言われるとおり、施設整備には費用がかかる。水道料金や、国庫補助もあるが財政的な運営をしていく必要がある。経営的に赤字にはできないが、どれだけ経費を下げて、必要とする事業をどれだけするかということになってくる。このような方策は当然、提示しないと皆さんの理解は得られないと考えている。中には水道料金の見直しという話も出てくると思う。大きな負担は考えられないので、コスト縮減は大きな課題になると

思う。このあたりも、今後具体的に提示していく。

④その他について

委　員　）次回の予定はどうなっているか。自分は水道に携わってきたが、そうでない人は水道のことはよく分からないのではないか。施設以外のことについて、災害対策等ソフトの問題も分かるようにしたほうがいいのではないか。

事務局　）次回委員会は、今年中、雪が降り始める前に浄水場を見ていただこうと考えている。

委　員　）ハードはいいがソフトのほうが重要ではないか。

事務局　）施設見学のやり方等については、相談させていただく。

委員長　）ほかになければ第 1 回委員会は終了する。